

令和4年度第2回御前崎市総合教育会議

日 時 令和5年2月22日（水）

午前9時00分～10時02分

会 場 御前崎市役所 3階 303会議室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 協 議

（1）令和5年度 御前崎市教育計画について

（2）その他

4 閉 会

出席者名簿（敬称略）

市 教 育 委 員 長
〃
〃
〃

柳 竹 澤 重 夫
島 田 田 和 世
松 林 田 惠 美
野 口 智 樹 美

副 市 長
総 務 部 長
健 康 福 祉 部 長
教 育 部 長
学 校 教 育 課 長
社 会 教 育 課 長
教 育 総 務 課 長
教 育 総 務 課 長 補 佐
教 育 総 務 課

鴨 川 朗
鈴 木 美
齊 藤 樹
長 尾 司
鈴 木 和
鈴 木 明
西 郷 美
栗 林 和
澤 入 裕

1 開 会

○司会 皆さんおはようございます。定刻となりましたので、始めさせていただきます。開会に先立ちまして、互礼を交わしたいと思います。相互に礼。よろしくお願いします。ただいまから、令和4年度第2回御前崎市総合教育会議を開会いたします。最初に市長あいさつ。柳澤市長お願いいたします。

2 市長あいさつ

○御前崎市長（柳澤重夫） 皆さんおはようございます。立春も過ぎまして2月も下旬に入りますが、朝夕はまだまだ寒い日が続いております。それでも自然界を見ますと、早咲きの河津桜も咲き始めまして、少しずつ春の雰囲気を感じられるようになりました。また、今日は第2回御前崎市総合教育会議ということで、教育委員さんには何かとお忙しい中を御出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様には日頃から、御前崎市の学校教育に対しまして格別の御協力と御尽力をいただいておりますことを、心から感謝を申し上げます。この3年間、コロナによって、特に卒業される中学生には、マスクで始まりマスクで終わってしまった3年間でしたが、今回の卒業式には3年ぶりに顔を見られるか、マスクの着用についても国から方針が出たようですが、皆さんの顔を見ながら卒業できれば良いなと思っています。また、今日は、令和5年度に向けましての教育計画を御説明申し上げまして、その後、皆さんから内容につきまして、様々な観点から御意見をいただければ、大変ありがたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。それでは、早速、協議に移らせていただきます。協議の進行は、市長をお願いいたします。

3 協 議

- (1) 令和5年度 御前崎市教育計画について
- (2) その他

○御前崎市長（柳澤重夫） それでは、早速ですが、協議として、令和5年度の御前崎市教育計画資料につきまして、事務局から説明をお願いします。

○教育部長（長尾 詔司） 令和5年度 御前崎市教育計画
(令和5年度 御前崎市教育計画 資料1、2、3 参照)

○御前崎市長（柳澤重夫） ただいま事務局から、教育計画について説明がありました。資料の1、2、3を通じまして、教育委員の皆さんから御意見をいただいて、より良いものにしていきたいと思いますので、御発言をお願いしたいと思います。はい。どうぞ。

○教育委員（竹田和世） 資料3の「あそび塾」の説明がありましたが、「もぐもぐ食堂」に比べて、あまり周知されていない気がするのですが、年に何回位開催されて、どのくらいの参加者があったのか教えていただけますか。

○社会教育課長（鈴木和明） 年間を通じ、月に1回は開催をしております。人数については1回の開催につき2組くらいの親子の参加があります。多いときはもう少し参加があることもありますが、平均すると2～3組の親子の参加があります。

○教育委員（竹田和世） 新しい取組ですね。とても良いと思いますので、もう少し告知のほうで何か工夫できたら良いなと思います。

○社会教育課長（鈴木和明） はい。こども未来課とも連携していきます。

○御前崎市長（柳澤重夫） 他に、どんなことでも結構です。幼稚園、小学校、中学校と、色々あります。教育というのは、いつの時代であっても、これで良しというものは無いですね。社会もどんどん変わっていくので、時代時代に合った教育をしていかななくてはならないですね。これからのICT教育も含めて、これからの社会に対応できるような子どもたちを育てていかななくてはならないということが、今の教育の課題だと思います。

○教育委員（野口智美） 質問よろしいですか。

○御前崎市長（柳澤重夫） はい、どうぞ。

○教育委員（野口智美） 資料1、教育計画の6番目に「互いの人権を尊重し、思いやりを大切にする教育への取組」や9番目の「健やかな体づくり」があります。この辺りに性教育という言葉がどこにも無かったので、少し気になりました。実際に小学校では、2年生から赤ちゃんがどうやって産まれて育っていくかとか、そういったところから個人の大切さとか、自分の体を大事にしようねとか、すごく伝えられていると思います。なので、性教育は、学年に応じてしっかりプログラムされていて欲しいので、こういったところにも載せていただけると、性教育もしっかりやっていると分かりやすいのかなと思いました。

○御前崎市長（柳澤重夫） これは、教育現場でないと分からないですね。

○学校教育課長（鈴木秀和） これは市の施策なので、学校としてはそれぞれの学年、発達状況に応じて、学習指導要領に基づいて性教育等については計画的に実施されています。

○教育委員（野口智美） 市で共通されていると、以前聞いたことがあったので、だいたいこの学年にはこういうことをやるのだねと。

○学校教育課長（鈴木秀和） それは、学習指導要領に示されているので。どこの学校でもそれぞれの学年に応じて実施されています。学級活動とか保健体育の授業とか年間を通じて実施されています。学校によっては、例えばLGBTの問題を道德の授業で扱ったり、総合的な学習の中で取組んでいます。市としてというよりも、学校ごとの独自性を活かしながら実施しているという現状です。

○御前崎市長（柳澤重夫） どの学年でどのくらいの性教育をやっているのか私は分かりま

せんが、高校でもやるのですかね。高校になるともう1歩踏み込んだ教育になると思います
が、小学校の低学年とは違うと思いますが。先日、日本国内で梅毒がものすごく増えている
とテレビで見まして。特に20代で増えていると。こういった事も踏まえまして、低学年か
らそこまで言っているか分かりませんが、そういった事も性教育の中で大切だなとテレビを
見て思いましたので。段階的にやって欲しいなと思いました。

はい。どうぞ。

○教育委員（竹田和世） 5番の「家庭教育支援の充実」ですけれども、振り返りのところ
で浜松学院大学の今井教授のお話があります。私も3年生の家庭教育学級で今井教授のお話
を伺うところに参加させていただきました。メディアとの付き合い方について、お母さん方
は本当に重く感じていらっしゃるところで、親の意見の押し付けや、親の小言にならないで、
教授が実験データで実証してくれているという中での話を親子で聞けるというのは非常に良
かったのですが、5年度に今井教授の事が書いてないのですが、この事業は4年度で終わり
なのでしょうか。

○学校教育課長（鈴木秀和） いえ。今、2年間、今井教授については小学校、中学校で保
護者と子どもで聞いてもらう活動を行ってきました。今井教授もおっしゃっていたのですが、
小中学校になって親子で考えるのでは、正直もう遅くて、幼稚園や保育園の保護者の皆さん
に子どもとメディアの関りについて、親としての考えを持っていただかないと、子どもが大
きくなってからはなかなか難しいという提案を受けまして、来年度は、市内の公立園すべ
てで、今井教授に同様の講演の計画を立てています。

○教育委員（竹田和世） 分かりました。各地区の青少年健全育成大会とかありますよね。
その講師としてお招きしても良いかと思いました。

○御前崎市長（柳澤重夫） そうですね。ただ、保護者の皆さんがあまり出て来ないですね。

○学校教育課長（鈴木秀和） 園だと、毎日、保護者と先生と接点があるので、小中学校よ
りも保護者との関りは非常に密なので、そういう点からも、今年、数園で今井教授をお招き
したのですが、やはり園の先生たちも園でやってもらえる意味は大きいと実感されていま
した。そういった事もあって、来年は、市内全公立園で7回、今井先生の講演を予定させても
らっています。

○御前崎市長（柳澤重夫） 今、園児との接し方については、きつく叱りすぎてもいけない
し、園の先生方も悩んでいると思います。先生方が思い切って指導できるよう、保護者にも
一緒に考えてもらうようにしないと、先生方が委縮してしまい思うようにできなくなってし
まいます。今井教授の話も、ぜひ園の先生と保護者と共有していった方が良いですね。今井
教授もおっしゃっていましたが、小学校高学年や中学では遅いのですよね。いつも言うので
すが、「つ」のつく年齢で、そこで決まると。「つ」がつく年齢と言うと、9つまでですよ
ね。ここまで人間に骨格が決まると言いますので、それまでには、ちゃんとした人間形成
を、そうでない場合には修正をしないと、なかなか修正はきかないのですよね。そういった事
を含めて、一番大事な幼児教育、また小学校2、3年生までを基本にして人間形成をやって
いく必要があると思います。園の教育は、人生の中で一番大事な教育課程と言えると思いま

す。

他には。どうぞ。

○教育委員（松林義樹） 今、市長さんの話で、幼児教育、こども園等の教育が非常に大事だとお話がありました。御前崎市ばかりでは無く、全国的にも保育士さんが少ない、足りないと、1人の保育士さんが見る子どもの数が、何十年来変わっていないと全国的に問題になっているところなのですけれども、御前崎市で保育士さんを手厚くするために、どんなことができるのか。今から予算付けは非常に大変でしょうけれども、例えば学校に配置している支援員さんのようなものが、園や保育園にもいるのでしょうか。

○学校教育課長（鈴木秀和） 支援員さんはいます。他市に比べれば、手厚いのではという印象を持っています。ただ、松林委員さんがおっしゃるように、保育士が不足しています。教員もそうなのですが、現実的な問題で、学校教育課としては保育士を目指す人たちのワークショップのようなものを夏休みにやって、そこで興味を持った人を面接行いながら任用していったりしているのですが、若い女性の先生が多いので、産育休を機に退職をする、休職をするといったこともあるものですから、年度途中で辞められてしまう方の後をどう埋めるのかといったことは、毎年、苦労しています。

○教育委員（松林義樹） 中学校では、キャリア教育で保育士さんに来て働き甲斐の話をしてもらって、興味を持っていくように促しています。これは個人的な考えで、できないかもしれないかもしれませんが、例えば保育士さんとして御前崎市に努めてもらえるように奨学金制度のようなものを準備しておき、御前崎市にそのまま就職してくれればプラスになるような、何か手を打っていかないと、ずっと保育士さんが少ない少ないと言っている問題がなかなか解決していかないかなと。それが教員にも同じことが言えるのではと思います。中学生、高校生辺りに向けて、そういう制度があるよと周知しながら確保していく方法もあるのかなと思いました。

○御前崎市長（柳澤重夫） 園の先生方も、子どもさんを産んで、例えば自分の子どもも預けて園へ行っている先生もきつと思います。ですから、そういった先生方も大変負担が大きいと思います。そこで、園で使う教材やおもちゃなんかを、作るものも結構あるのではないのでしょうか。園から夕方帰ってきて家の事もやらなくてはならないのだけど、園で使うものの準備もある方は、大きな負担になっていると思います。そういった、家庭内に持ち込んでやらなくてはならないという事の負担を軽くするための手段も考えないと、と思います。結構あるようです。そういった負担軽減について、先生同士でも良いですが、保護者の皆さんの中でも協力してくれる人もいるかもしれません。お互いに協力してできれば良いかなと思います。テレビで見たのですが、岡山県の奈義町では出生率が2.95で、そこではみんなで子育てをしています。一般市民も含めて、みんなで子育てをしています。岸田総理も訪問したそうなのですが、そういった所もありますので、子育ては園と保護者だけではなくて、地域も関わっていかないと、そういったものには繋がらないなと思いました。

はい。どうぞ。

○教育委員（島田恵美） 昨年、園の虐待が全国ニュースでも話題になっていて。市では職員の人事異動があるじゃないですか。例えば3年くらいで環境を変えられるというシス

テムがあるので、すごく良いと思うのですが、民間の保育園ではそれがあまり無いと思います。ちょうど御前崎市にもできたので、これまではあまり市との交流も無かったと思いますが、交流しながら環境を変えることは、園ごとに独自の良い点もあるので、そういうことを学べる巡回型も良いなと思いました。保育士の研修会があると思うのですが、やはり女性だけの職場というのもあって、相談すると言っても人間関係で悪循環になっていると思います。第3者、他の市でも始まったようですが、例えば市で相談窓口を設置して、個別に先生方が相談できる窓口があると、先生方が助かるかなと思います。今回の事件も内部告発のように、辞めた先生が声を上げて発覚したこともありますし、ただ研修をして子どもたちへの対応のことだけでなく、先生方の意見を聞くという場もあると良いのではと思いました。

○御前崎市長（柳澤重夫） 先生同士の、口には出せないそういったものもあるのでしょうか。そういった傷口が深くないように、第3者の中立の立場で入ってあげるのも必要かも知れませんね。とにかく気持ちよく働いてもらいたいですね。楽しく働ける環境なら、周りもみんな良くなるよね。そういった環境づくりが、特に教育現場では大事だと思うのですよ。それで先生たちも、親として人間としての魅力をつくってもらって、ただ学問を教えれば良いというのではなくて、社会ではいろいろな問題があるので、そういった事も取り入れて、子どもたちの興味も引きつけながら、勉強に入るということも大事だと思います。子どもの頃を思い出すと、先生のところに纏わりついていった事も思い出します。嫌な先生のところには行かなかったですけども。そういった、子どもたちにとっても、魅力、信頼のある先生の方が、生徒たちも勉強をやる気になるし、いろいろなものに取り組みやすくなると思います。先生方のそういった雰囲気づくり、大切だと思います。ICT だとか、子どもたちも字を書く機会も少なくなったり、様々な教育環境も変化してきています。先月、私、ある大学に行って、1時間くらい講師で話をしてきました。そこで学生が書いたアンケートをいただいたのですが、字が崩れていてほとんど字が読めなかったです。そういった事になるのも辛いなと思いました。字は書かないと忘れちゃうのですよね。そういった事もある程度は教育現場で教えていただきたい。そういった事も、大事だなと思いました。昔とは社会も教育環境も変わっていますしね。

他にどうですか。はい。どうぞ。

○教育委員（竹田和世） GIGA スクール構想の御前崎市3箇年計画というものも意識しながら、学校訪問に行きました。そうしたら、子どもたちは本当にすごいですよね。タブレット端末を本当にスムーズに使いこなしているし、調べに使ったり、作曲に使ったり、グラフに書いたり、予想以上にすごくてびっくりしました。県の教育長が静岡新聞で窓辺のコラムを書かれていて、教育とは人間の可能性を信じることでであるということを書かれていました。学校訪問では子どもの可能性というのは本当にすごいなと感じさせてもらいました。タブレット端末は、すでに文房具の一つになっているなと感じました。この構想が具現化されているのを確信しました。

○御前崎市長（柳澤重夫） 今、子どもたちにタブレットを持たせて、ああいうのを見ると、びっくりするくらい使いこなしていますね。こういったものも活用して、良い教育をしてくださいます。教育委員の皆さんも学校訪問したりして気づいたことを言っていて、今まで通り。社会はどんどん変わっていきますが、子どもたちには、どんなところに行っても、社会に対応できる応用力、柔軟性をつけてもらいたい。教育の場で身につけてもらって、どう

いう所でも対応できるようなものを身につけて社会に出てほしいと思います。

子どもの遊びというのは、すごく大事だと思います。遊びは成長するときの大きな肥やしになると思います。だけど、今の子どもたちは自分から遊びをつくれないうえ。だから地域でも、今回はウィズコミュニティでやりますので、地域で子どもたちを巻き込んだ地域教育をやってほしいなと思います。特に、ここに野口さんもいますが、小学生の子どもたちが、小学校に行く前に海に行ってサーフィンをやっているのですよね。そういった子どもたちもいるのですよね。そういった事も、御前崎はすごく魅力的なのですよね。マリンスポーツだとか、教育の環境があるので、活用して社会教育の充実をお願いします。

ということで、令和5年度に向けましての御前崎市教育計画については、よろしいでしょうか。また来年度も総合教育会議がありますので、そこでまた、教育委員の皆様から御意見をいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

○司会 ありがとうございました。皆様から御意見を頂きましたので、来年度の取組に生かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

4 閉 会

○司会 それでは、最後に互礼を交わしたいと思います。一同、礼。ありがとうございました。